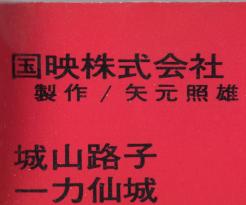
成人映画

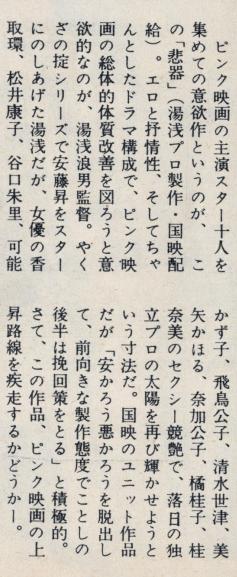
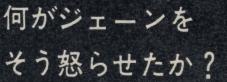
★特集
セクシー女優37人
SEX運の星占い

創刊一周年記念号

国映株式会社
製作／矢元照雄

餌

城山路子
一力仙城
松本真知子
花 栞 夏 枝
成 瀬 恵 子
西 ゆ り

監督／向井 寛
撮影／鈴木次郎

しゃくにさわるけど俺は欲しい！メスブタ共がくれる金という餌が…！

国映

<ロケルポルタージュ>

エロと抒情性を求めて…

——「悲器」水戸ロケより——

裸でハッスルする湯浅監督

ピンク映画の主演スター十人を集めての意欲作というのが、この「悲器」（湯浅プロ製作・国映配給）。エロと抒情性、そしてちゃんとしたドラマ構成で、ピンク映画の総体的体質改善を図ろうと意欲的なのが、湯浅浪男監督。やくざの掟シリーズで安藤昇をスターにのしあげた湯浅だが、女優の香取環、松井康子、谷口朱里、可能かず子、飛鳥公子、清水世津、美矢かほる、奈加公子、橘桂子、桂奈美のセクシー競艶で、落日の独立プロの太陽を再び輝かせようという寸法だ。国映のユニット作品だが「安かろう悪かろうを脱出して、前向きな製作態度でことしの後半は挽回策をとる」と積極的。さて、この作品、ピンク映画の上昇路線を疾走するかどうか—。

桂奈美

香取環の砂の上のラブシーン

松井康子

谷口朱里

「プレイボーイ」誌が訴えられた問題の写真!!

何がジェーンを
そう怒らせたか？

■特集

成人映画

NO.12

昭和41年10月1日発行

創刊一周年記念号

現代工房／発行

ヘンリー・フォンダの娘で女優のジェーン・フォンダが、アメリカの月刊誌「プレーボーイ」の編集長兼発行者のH・ヘフナ氏を相手どって、千九百万ドル（六十八億四千万円）の損害賠償請求をしてニューヨーク州最高裁判所に訴えた。

その告訴理由というのが同誌の八月号に、フォンダに無断で乳房を露出した、ヌードに近い写真をのせられ、侮辱されたというもの。

この写真はさる一月にフォンダの夫で、フランスのロジェ・バディム監督の「獲物の分け前」を撮影中、フリーのカメラマンが〃個人用〃に盗みどりしたものだそうだ。

同誌に掲載の問題のシーンをみると〃フランスのフォンダ〃と題して六ページにわたってフォンダがプールで、パンティ一枚になり、オッパイ丸出しで泳いでいるスナップ十一枚がのせられている。

この中でとくに彼女を怒らせたのが胸もあらわに出した七枚「私はこれで芸能界のモノ笑いになり、職業的実績が傷つけられた」といっている。これはいささかオーバーないい草だが、それなら、このシーンの撮影を自から拒否すればよさそうなものだが、そこは夫の演出に忠実だったのかも知れない。

「プレーボーイ」誌といえば世界的に有名な娯楽雑誌、ヌードが有力な売りもので、同誌はチョイチョイこうしたモンダイをかもしている。

それにしても六十八億円という請求はアメリカでも空前の額。この話をきいて「プレーボーイ」誌は飛ぶような売れ行きとか。わがニッポンでもいまなら書店と一部駅売店で四百五十円ナリで売っている。

右頁写真はフォンダが侮辱された！と68億円を請求した「プレーボーイ」誌の問題のシーン

ロケ・ルポ──

のセクシー競演「悲器」

（湯浅プロ製作・国映配給）

ロケの合い間にも魅力ポーズをとる香取環

火花散らすライバル意識

湯浅監督といえばご存知、安藤昇をアッという間にスターにし、掟シリーズを作って、不振の松竹にカンフル注射をうって起死回生をはかった監督である。

もともと第七グループで「牝蜂」など数本のピンク映画を手がけてきたエロダクション畑の出身。

「ピンク映画に節度がなさすぎたということはいえますね。なんでもハダカやベッドシーンがあればお客を呼べると思って、底の浅いドラマ不在の映画ばかり作ってきた。女優だってこれがよくもまあーという女の子を主役に使っている。

それじゃお客になめられますよ。ソッポをむかれるのは当然のことなんです」

ときびしく批判し、こんどの「悲器」の映画化となった。

出演スターはいずれも主演クラスの女優を十人集めた。

◇特集◇

10大女優

香取環、松井康子、谷口朱里、桂奈美、美矢かおる、可能かず子、清水世津、飛鳥公子、奈加公子、橘桂子といったそれぞれ一本立ちの主役スターでこの世界では看板どころである。

それでもこんどのキャストの中には内田高子、新高恵子

ピンク映画がひところほどの隆盛ぶりでないという。もちろん、日本映画界の全般にいえることである。そこでもう一度上昇気流にのせねばと大いに意気込んだのが、湯浅浪男監督。このほど湯浅プロを作って「悲器」（国映配給）を映画化した。

〝体質改善をみんなでやろう〟と音頭をとったわけだが、主演クラスのピンク女優十人を集めたこのデラックス版。残暑きびしい水戸、大洗ロケの現場をルポした。

城山路子といった顔がみられないのは、どうしてもスケジュールの調整がつかなかったというのだが。しかし一方では〝香取環が出るんならあたしは遠慮したいワ〟という女優もいたそうだから、やはりこの世界も闘いがきびしい。

「悲器」のワンカット

「常時この程度のキャストを組んでゆくのが本当だ。でなければこの半分の顔ぶれは集めて作るべきじゃないのか」と湯浅監督はこんどの十大女優を確保したことで満悦の様子。体質改善はキャストから—というわけだ。

男優は役得だなァ！

まず撮影現場に直行した。水戸の駅に近い元遊廓のあと。そこの一角のあるバーの一軒を借りてのロケである。もともと湯浅監督は水戸で八年間も映画館の支配人をしていたというだけに土地に明るい。そのかつての〝顔〟に物をいわせて、ドラマにピタリのバーを借りた。ドラマの方はある港町のバーで、裏側では赤線まがいの生活に生きる女たちがいる。その中に子供をかかえた未亡人が若い船員と真実の愛に燃えたが、ショセン別れる運命だったというお話。

雑草のように生きぬく女の生命力がテーマだといい、焦点は〝エロと抒情性〟だと監督がしきりと強調するのである。主役の香取、谷口、清水美矢、松井、飛鳥、奈加、桂らがつぎつぎと東京からやってくる。みんなバー兼ベットホステスの役で、バーの裏にある元遊廓の部屋をそのまま借りているので、そこが控え室、十人近い女優がてんでに寝ころがったり、スカートをはでにまくってパンティをのぞかせて、自分のシーンの出演を待機する。

しかも相手を食ってやろうという気構えが胸の底にある。

美矢かおるが、バーテンの津崎公平とはげしいからみをやっている。好色のバーテン

が「オレは商品に手を出すのが趣味でね」といい、美矢のワンピースのファスナーを開いて首筋に接吻、そのままカウンターに彼女を強引にひき、あげてラブ・シーンをやるのだ。美矢が脚をバタツカせて抵抗するたびに太モモがセクシーに露出する。白い太モモがチラチラとみえる方が色っぽいものだ。バーから出てきた津崎バーテンは唇の周辺を口紅だらけにしている。いい役だねえーである。

桂奈美のオッパイは圧巻

地方から家出してきた小娘の奈加公子。美矢と谷口の先輩ホステスを前にして、カオほどのオニギリを食べて、「あたしウンと稼ぐからサ」と胸をひろげてみせる。湯浅監督が「いい感じで芝居もうまい」と感心したほどだが、美矢、奈加がこうしたシーンを撮り終えるとサーッと帰ってゆく。

「ハイおつぎは桂奈美クン」と助監督が呼び出しにくる。まるで入社試験にみられる面接テストみたいである。

しかもバーを締め切り、外から暗幕を張っているので中はムシブロのような暑さ。黙っていても汗が吹き出てくるのに、ライトが照り、熱演するのだから女優たちは汗ダク。

桂奈美もグラマーホステスのひとりで、お客の前で上半身裸になって踊り、船員に抱きつくといった芝居。

ブラウスを脱ぎブラジャーをとり去ったらビューンとしたオッパイが飛び出す。「成人映画派女優」のなかではそのオッパイの見事さの点ではトップクラス。文字通りブルンブルンと揺れ動くのであった。

セクシーシーンがいっぱい

さてつぎなるは飛鳥公子と清水世津のケンカ場シーン。上になったり下になったりでユカタの肩肌脱いだ清水世津のチンマリとしたオッパイがのぞく。

ひっくりかえった飛鳥公子が大ぴらに股を開くものだからそのリアルなことったらない。とっかえひっかえ十人の女優たちがそれぞれの最高にセクシーなところをお目にかけ、個性を発揮させるという寸法である。

ケンカシーンを撮り終えてホッとしたのか、底抜けに開放的な飛鳥がアンネの告白論をやって並いる好きな男性ス

飛鳥公子もベッドシーンを熱演

ダップをギャフンとさせたものだ。

「十人も一緒にヤドに泊まっていると三人はアンネの人はいるわね。TさんもSさんもMさんもやっと終わったところでしょ。奇妙なことにサ、アレ伝染するものなのよ。あたしなんかデリケートなもんだからさ、すぐ招かれちゃうの。それでもケンカシーンがきょうで終わってホーッよ」

その告白がまことに実感であった。

「十人も女優さん集めると、それぞれのアンネスケジュールを立てておくべきだった」

と湯浅監督が笑いながら頭をかく。

一時間三十分の上映時間の中で半分近くが十人の女優のセクシーシーンだというからファンにとっては大サービスになるだろう。

「単なるセクシー場面集じゃない。ガッチリしたドラマを組みたて、その中に抒情性があるんだ」とエロと抒情をさかんにPRする湯浅監督。

悲しい女の宿命をシリアスな演技で見せる香取環

女同士の激しいからみに思わずカタズをのむ

独立プロも大作主義で行く

このロケには久々にマスコミ取材班が〃十大スターのセクシー競艶ときいて週刊、月刊誌、新聞と十数人の報道陣が現場に押しかけた。

ピンク映画の復興というので配給さきの国映の矢元営業部長もやってきて、

「これだけの女優を集めるだけでも大変です。安かろう悪かろうじゃなく、こんどは製作費もグッとかけているし意欲作だ。自分たちの首を締めるような作品を排除するためにももっと独立プロは前向きでありたい」という。

こんどの現地ロケでは製作者側も配給側も出演者もいままでのままでは自滅するということを本当に察し、この辺で力を合わせようというムードが感じられた。

特集
ロケ・ルポ

西武池袋線、江古田にある江古田マンションの一室で、葵映画製作、配給の「炎の女」（監督西原儀一）の撮影現場をのぞいてみた。

ベッドシーンも激しい『炎の女』

＝葵映画製作

シナリオは西原監督オリジナル。物語は怜子（香取環）がヤクザの秀樹（林田光司）と愛し合っていた。ヤクザから足を洗った秀樹と二人でスナックバーを開き、楽しい毎日を過していたが、ヤクザの縄張り争いのため怜子はヤクザの一人を殺してしまう。刑務所に入ったが秀樹のことが忘れられず、映子（成瀬恵子）と脱獄をするが秀樹は別の女（新高恵子）と生活をしていた。怒った怜子は秀樹を殺してしまう……。

☆

狭いマンションの一室では香取環、林田光司がベッド・シーンの真っ最中。林田の背中一面に刺青を書き、香取の太ももにも牡丹の刺青が書かれている。

「昨日、書いたんだけど、お風呂に入っても消えないの」と太ももの刺青をパッと見せた。少し色あせていたが、きれいな白い肌がなまめかしい。

六畳の中でライトがあてられるものだから部屋の中はムシ風呂のよう。黙っていても汗が流れるのに二人が激しいベッド・シーンを何回となくやるものだから、全身滝のように汗が流れる。だから、せっかくの刺青がとけて流れて

「炎の女」の香取環

消えてしまうので、それを修正するためたびたび撮影は休憩。

香取は持ってきた大きなオニギリをフトンの上にひろげてパクつきながら、

「私ね、何年も女優をやっているけど、刺青したのも、脱獄囚でのよごれ役もはじめてなの。監督はこわいけど、すごくやりがいがあって楽しいわ」。

そばにいるサングラスをかけた西原監督は、松竹、大映、宝塚と映画歴二十年のベテラン。

昨年五月に葵映画の「激情のハイウェー」で独立プロ系に入り「炎の女」で十二本目。

〝アカン！もう一度や！〟と関西弁で声がかかると、ベテランの香取さえ身が引きしまるという。

「〝炎の女〟は香取クンの性格みたいなものを出したいと思い、彼女をイメージにして書いた。それだけに彼女も真剣にやってくれたと思う」

「ボクの映画をみても解るように、ドラマ本意でベッドシーンなんかにはあまりウエイトかけないし、サービス心がないので、これではいけないと思う。これからはベッドシーンや、ラブシーンもウンと入れたい——」という。とかくベッドシーンや裸ばかり多く、ドラマ不在の映画が多い昨今、独立プロに新風を送ってほしい監督の一人だ。

（川島のぶ子）

熱演する香取環「炎の女」より

〈セクシー女優クイズ〉

この女優は誰？

第6回目のクイズの問題は，シャワーシーンの女優です。ピンク映画の撮影なら文句なしに全裸になって，セッケンの泡を全身になすりつけて演技するのだが，五社系女優ともなると水着をまとって防衛体制よろしくかくのごときニセモノシャワーシーンと相成るのです。最近「００７は二度死ぬ」のジェーム・ボンドの相手役―といえばもうおわかりのことでしょう。●正解者10名に本誌特写によるグラマー女優のピンク・ムード写真を贈呈します。答えはハガキに住所，氏名，年令，職業を明記のうえ，東京都中央区銀座東６ノ４　村木ビル５階　現代工房成人映画編集部あて。締切は10月20日まで。発表は賞品発送をもってかえます。

♥シネマY談・あんなハナシ　こんなハナシ

全裸演技にもハッスルする川口小枝の女優根性

「白昼の通り魔」（大島渚監督）でデビューし、見事なオッパイをスクリーンに発散させた川口小枝が、再び「女は復讐する」で主役を演じ、のっけからベッドシーンをやってのけた。松竹作品、長谷和夫監督で笹沢左保の原作「空白の起点」の映画化。

原宿のあるマンションを借りての撮影ではのっけから川口が上半身裸で、天知茂とベッドシーンをやってのけた＜写真上＞が、その豊かな白い肌のオッパイを惜しげもなく露出して「別になんとも思わない、お仕事と割り切ってますから」となかなかの根性。それにしてもこれまでベッドシーンはバスタオルを巻いて撮影してきた松竹のスタッフは川口のセクシーなオッパイに思わぬ目の保養。

「やっぱり武智さんの娘は大ものだねえ」。

スキ者同士が作ったセクシー映画

映画館主が自から資金を出したり近ごろの映画作りはさまざまだが、東京の新宿商店街の有志がお金を出し合って映画を完成したのが光映画の「女の砦」。監督が大映の水野治監督で主演が城山路子、左京未知子、それに元新東宝の女優たちが出演している。

人妻の浮気を描いた内容だが、元大映のプロデューサー有馬猛氏が新宿御苑前に光映画を設立し、その第一作に「女の砦」を決めたところ、地元の商店街の映画好きな人たちが、「いつも見るだけだったが、こんどは一つ作る側に回ろうよ」と五万、十万円のこづかいを出資して映画化したもの。

芥川賞作品に取り組むピンク劇団

ピンク映画スターの実演劇団「赤と黒」はその後、着々と地歩を固めて、いま第八回目の「狂ったプラン」＜写真下＞を池袋のシネマ、リリオとカジバシ座の二館で上演している。

十二日までリリオで公演したのが「狂ったプラン」（原作演出松野京一、脚本安永作二）はエロチック、スリラー・コメディ形式だが、旗あげ作品「めす猫の宿」からくらべれば女優連も格段の進歩。

今後はお色気を入れながらどんない旧台をつくるかが目標なそうだが、二十七日から一週間は芥川賞作家石塚喜久三氏が戦後まもなくに書いて話題となった肉体文学「回春堂」を劇化、上演することになった。

ピンク劇団も芥川賞作家の作品に取り組むようになったとは大変な進歩デス。

誌上リバイバル
セクシー劇場

セクシー映画の革命作品ともいえるのが、この武智鉄二監督の「白日夢」である。このサディスティックな場面は当時の映画界にかなりのショックを与えた。いまでこそ若松プロであいついで「裏切の季節」や「胎児が密猟する時」にさかんにサド的な画面を執拗に追っているが、武智監督は数年前にこの傾向にセンベンをつけたといえる。女のエクスタシーの表情集の如き感しらあったが、路加奈子が鮮やかに躍り出て、不振の松竹に三億円も稼がせた。そしてその年の夏のボーナスを支給した。決して白日の夢ではなく正夢の映画であった。

神戸の福原といえば元赤線地帯として有名。いまそこを通ると軒並みにおばはんが立っていて「あんさんオブ（お湯）に入っていきなはれ」と誘う。色のついたプラスチックドアをあけると、ソファにタオルのガウンスタイルの女の子が並んでいて、指名すると、バスタオルなどのタオルセットをぶら下げて個室に案内してくれる。

六畳間のつぎがフロ場で、一緒に入ってくれて背中などを流してくれる。この際オスペなどは「そんなモンウチ知りしまへン」と断わられるがコトはオールヌードでザブトンを愛用ということになっている。コトが終わるとザブンとサッパリ。これはきわめて清潔的ってコトですな。入浴料が千円、実戦費が二千円。俗に浮世風呂といい、神戸駅から歩いて十分とかからない湊川神社ウラにある地区。

中共の如く紅衛兵がもし日本に現われて看板を革命的に変えたらさぞおもろい結果になるだろう。たとえば「トルコ風呂」は「強制的精液抜き取公司」。「スペシャルサービス」は「掌上下運動乳液発射」。「肛門科」は「痔革命科」。「生理用品」は「婦人解放的跳躍自在ワラジ型紙製品」。「ブラジャー」は「大小上下自在乳被袋」といった具合。

★

伊豆長岡駅の新開地は約二十軒の旧赤線。長岡・古奈と合わせて芸者は七十人程度。「長岡銀座」の両側の店からは「お話していかない」などという声がかかる。十八軒のバーでは「飲んでも仕方ないじゃないの」とか「飲むとダメになるわよ」と理解のある言葉が飛び交う。「東京のBGや女子学生のアルバイトが多い」といわれている。女性の数は平均九十人。三時間四千円、泊まりは六、七千円。「本物の女子大生にあってホントに教養があった」と感心したサラリーマンもいた。

とにかく21回通えば実現するというのが浅草ちんや横丁わきにあるH。指名のホステスの持っているエンマ帳にサインをするシステム。初回は口説く必要もなくキス。11回通えばオサワリ。21回目からフルコースOK。ビール一本千円程度。サービス料はとらないが、それにしても毎晩通って二十一日、二万一千円とは気の永い……ということになるが、楽しみはあとで……というわけでしょうな。

★

時間三千円から五千円クラスなら国電渋谷駅南口、正面口のハチ公の銅像附近にウヨウヨしている。それより安くというご仁には東横百貨店の旧館下の暗い歩道。ここには東横線沿線の工場寄宿舎から抜け出した女子工員のアルバイトも参加して、時間一枚という安直なのにも往々にしてめぐり会える。

今月のスクリーンエロチシズム

新作紹介

「夜の日記」で官能的な女を演ずる可能かず子

夜の日記 ——関東ムービ配給

●多淫な女を演じる可能かず子

村の旧家の息子春夫（名和三平）は、しのぶ（清水世津）との結婚が決まっていた。彼には浮気で男好きで誰れにでも体をまかせると評判の牧子（可能かず子）の肉体が忘れ

「情炎」のクライマックス・シーン　香取環と久保新二

「夜は憎い」の火鳥こずえ

「もだえ花」の麻里亜子

られず、金を持ち出し、二人で東京にかけおちをする。

マンションに住み、見違えるほど美しくなった牧子は、ホステスになり、持ち前の官能的な魅力で客を喜ばせるが、牧子の体の中には多淫な血が流れていた。

春夫を愛しながらも、幾人もの男に溺れてゆく女の日記とは……。製作＝新星プロダクション　監督＝小川欽也

情炎——日本シネマ配給

●宿命に翻弄される女の愛の悲劇を描く

琴の教授の幸子（香取環）はトップレディとマスコミにも噂され、永遠の処女とまでいわれている。しかし、幸子にもいまわしい過去があった

十六才の夏不良に犯され、だれの子ともわからない男の子を生み、里子に出してしまったのである。

書生として幸子の家に住み込んだ哲夫（久保新二）は美しい幸子を愛し、幸子もその愛におぼれそうになるが、哲夫が十九年前に産んだ子供だと知った幸子は愕然とするのだった。

祇園祭に湧く京都を背景に愛の悲劇を描いている。

製作＝オリオン興行
監督＝向井寛

もだえ花——大蔵映画配給

●処女を奪われた少女の苦しみと歓びと

志津（清水世津）は私生児の娘久美子（麻里亜子）と二人で飲み屋をやっているが、志津は年下の竜二（大柳隆治）

「拷問」の第三話新高恵子

「赤い情事」で悪女を演じる内田高子

全裸で熱演する谷口朱里「甘い吐息」より

と関係し、亭主気取りで店に居坐わってしまう。久美子はそんな竜二を嫌っていたが、肉体の歓びを知っている志津は離れることが出来ない。

そんな竜二は久美子も狙い処女を奪ってしまい、久美子も人が変わったように男たちと桃色遊戯にふけるのだった。

製作＝中央映画テレビ
監督＝石山堅

夜は憎い ―新東宝配給

●財力に奪われる女の自由

千秋（火鳥こずえ）は赤坂でも評判の男嫌いの売れっ子芸者だ。

五百万円で水揚げされると聞き、大学に通っている妹の真弓（美矢かおる）のため、目かくしされ、純白の長じゅばんを着て静かに横たわる千秋の前に現われた老人は、幼いとき別れた実の父親だった。**製作＝国際ビデオ**
監督＝湯浅浪男

甘い吐息 ―東京興映配給

●男と女の愛欲の果て。複雑な情事の葛藤を描く

新妻の美津子（谷口朱里）は夫（円丈寺徹）の留守に突然、強盗に襲われ体をうばわれてしまう。夫は美津子のとりみだした様子を不審に思い義妹の実子（可能かず子）に身辺調査を頼むが、親密になった二人はあやまちを犯してしまう。強盗にユスられ、情事を重ねる妻、義妹と関係している夫、平和な家庭に忍びよる事件は複雑化してゆく。

製作＝映建工芸
監督＝大西孝典

餌——国映配給

●秘密クラブに興じる好色夫人たちの異常なムード

耕一（一力仙城）は踊りの師匠の静枝（城山路子）のつばめである。

静枝のお相手ばかりでなくある秘密クラブのモデルをさせられ、静枝から月々のお金をもらっていた。

今日も喫茶店の明子（松本真知子）を誘惑してベッド・シーンを演じたが、その部屋にはマジックミラーがあり、好色夫人達の目を楽しませていた。**製作＝東京芸術映画　監督＝向井寛**

「餌」の濃厚なベッド・シーン

赤い情事——日本シネマ製作・配給

●エロチック・ミステリー

清高（飛田八郎）は元華族という肩書きほしさに勢以子（内田高子）と結婚するが、利用しつくした勢以子をなんとか離婚させようと、若い男を使い誘惑させる。

一方清高の方では若いデザイナー（左京未知子）と情事を重ね、楽しんでいたが何物かに殺されてしまう。知っているのは勢以子だけか。

監督＝福田晴一

拷問——東京興映

●戦国時代、寛永時代、元禄時代の拷問のエピソード

戦国時代、寛永時代、元禄時代の三代にもとづく拷問のエピソードとその陰惨な実態を三話からなるオムニバスで描いている。

第一話は築城の工事の難攻不落を地の神に祈るため弥八郎（高松政雄）は娘雪絵（花葉子）を人柱にし、生きながら天主閣の敷地に埋めた。

第二話は小夜（加山恵子）はキリシタンのため両親は火干し責めで悶死し、小夜も蛇責めや三角材にまたがり、股の裂けるような拷問を受け、ついに両足を縄で縛られ馬裂きで死んだ。

第三話は藤馬（里見孝二）は妻七重（新高恵子）が姦通しているのを知り、嫉妬に狂って七重を六所斬りの極刑にする。六所斬りとは鼻、耳、乳房、下腹部、両手、両足を順次斬り落とす凄惨な刑。

製作＝小森プロダクション　監督＝小森白

武智監督の問題作「幻日」

—鮮烈なカメラワークとエロチシズム—

きょ年の夏、「黒い雪」で騒然たる話題をまき散らした武智鉄二監督の「幻日」（夏目漱石原作の〝夢十夜〟より）は、「黒い雪」の裁判中に撮影された。

「白日夢」「紅閨夢」「黒い雪」「源氏物語」について五本目の作品だけに、ツボを心得た演出ぶりで、ロケとセットに精力的なメガホンぶりをみせていた。こんどの作品で高田昭カメラマンを起用したことは大きな収穫だろう。彼は大島渚監督の「白昼の通り魔」を撮影したが、あのカメラワークの鮮烈な映像は秀逸であり、一つの冒険を試みて、それが成功したことを如実に物語っていた。武智監督が大島組の長野ロケに同行して高田カメラマンに目をつけスカウトしたのはやはり目が高いといえる。このカメラだけでも「幻日」はなかば期待を抱かせるに十分なものがあるようだ。

砂丘地帯のロケでは死んだ柴田恒子を砂丘に墓穴を掘りそこに埋めると、百合の花が咲くというシーンがある。そのシーンの撮影のため、静岡県の掛川の海岸へロケした。ここは「砂の女」（監督勅使河原宏）を撮ったところ。夏の盛り、四十度を越す砂地が焼けつくような中で撮影が行なわれたが、次頁グラビアに紹介のように効果のあるシーンが現出、撮影も成功に終わったようである。フランス映画の「情婦マノン」のように内田良平が柴田を背負ってゆくシーンや、彼女が砂の中に埋もれる場面は砂と女のセクシーさが発散している。

現代日本の矛盾と悲劇、失われた民族主義、日本の政治現況を描きながら、全体のムードはロマンチックなものになったというこの作品、ことしの日本映画の後半にどう割りこんでくるか興味深い。

「幻日」の一場面。主演の柴田恒子と内田良平

★柴田恒子の略歴

三十四年四月豊橋農城中学三年生のとき、松竹の新人女優募集に応募して合格、「続・禁男の砂」でデビュー、「私は忘れない」「赤いパンツ」など十五本に出演、その後ファッションモデル　二十六才。

女優　柴田恒子

女優
柴田恒子

文・武智鉄二

妻と娘（川口秀子・川口小枝）が連れだって買物をするとき鎌倉の街角で、ときどき見かけていて、妻が「それぁきれいな人ですよ。とても鎌倉にはザラにいない絶世の美女なのよ」と報告したものである。いつの間にかその美女の柴田クンと母娘が言葉を交し合い、つき合うようになっていた。女というものはまことに不思議なものである。その美しさにゾッコン参っている話を数回きいた。「幻日」の主役を誰にしようかーと思いあぐねていたとき、「それあ柴田さんが適役じゃないかしら」と妻がいえば、娘も、「元松竹の女優さんだった人だし、ピタリよ」としきりと推すのであった。その後彼女と会った。ボクの「白日夢」をみており、作品と芸術的なものが支援できるということである。こうして妻と娘の推せんとボクの作品支援がこんどの「幻日」出演の理由である。仕事をしてみて、カンがよく、さまざまのイメージーを湧かせてくれる要素を持っていて、この作品に起用したことは一つの収獲であった。

カメラ・武智俊郎

ブラもはちきれそうな…

ストロー・ハットの桂奈美

〈スター訪問〉城山路子

セクシー女優のバー経営

秋のモードを仮縫い中の城山

人妻のよろめきや悶えとか未亡人の情事などといったソフトなセクシー演技をやらせたらまず右に出るものがいない。和服姿がよく似合って、白い長ジュバン一枚の下にチラリとのぞく豊かなる肌……城山路子はこのところグッと上昇している女優だ。

いつの間にかスターダムにのし上がり、一つの貫録をみせているのも、やはり新東宝東映と演技の道を歩いてきたキャリアがものをいっているのだろう。女優業のほかにバーのママさんにでもある城山路子のスター訪問。

■素顔にもセクシームード

東中野にある彼女のバー「リズ」。その三軒隣りにあるボーリング場の中野ファミリーレーンのレストランで会うことになった。

さきの松井康子と会うときもボーリング場だったが城山の場合もボーリング場である。さぞやその腕前を磨くのに懸命なことだろうと思ったら、ボーリングの方はたまにやるくらいで、もっぱらレストランを利用している方だという。まさに食欲の秋にふさわしい。

赤い地に紺の花模様のワンピース。胸元が大きく開いていてその中がチョッピリのぞそけうだ。身を乗り出して、「やあコンニチは」とスクリーンでみる豊かなるオッパイを実物拝見！と思ったが、みられそうもなかった。残念ナリ。

それにしてもいつも和服ばかりのスタイルを映画でみていると、きょうの彼女のワンピーススタイルもこれまたなかなかよろしい。ぐっと色っぽい。

あのソフトなカオの中に、ちょっぴり甘い瞳と、形のいい唇。母性愛本能を刺戟するようなムード。こうして直接対決？するとやはりセクシー女優にふさわしい魅力があたりに発散するのである。

ママさんとしての貫録も十分

■必然性のないハダカはイヤ

ことしは出演本数も去年にくらべて少なく、いまだに四本しか出ていないそうだ。

「きょ年はあまり出過ぎて自分を見失い勝ちだったから、ことしは自分に合ったもの、シナリオのいいものだけ選んで出るようにしているの」。

いま若松孝二監督から主演してくれと申し込まれているが、態度保留中だという。なぜかというとハダカが多くて「必然性がないから抵抗感じちゃう」のだそうだ。

ピンク映画に数多く出演しながらハダカがいやだなんてどういうわけ？この前も向井寛監督の「餌」でハダカを要求され、泣いてしまったという。まだまだウブなんだろうか。（イヤイヤそんなことはあるまい。ひとかどのバーのママさん女優でもあることだしねえ）。

このほかいま企画中なのがかって、高峰秀子がやった「女が階段を上る時」の

ような作品が某プロダクションで準備されているという。

「できたらそれをプロデュースして主演してみるつもり……」と意欲もある。

そんな話をしていると、夕ぐれになってきた。バー「リズ」の開店は六時ころだが、その前にいつも洋服を仕立ててもらっている洋品店に仮縫いに行くことになった。

そこから歩いて十分。お針子さんが三人いて、デザイナー女史が気さくに迎える。

彼女はもうこの店で七年間も洋服を仕立ててもらっている馴染みの店なそうだ。

仮り縫いもちょうど出来たところで、さっそくカーテンのカゲで着替えする（その着替えのセクシーな風景を読者に紹介したいところだったがね）

黒地のカクテルドレスで、夜のママさんユニホームという奴だろう。

■ママさん稼業も三年目

近くのレストランで

「じゃお店の方に帰りましょうか」というので、こんどは本業？のバーに行くことになった。ドアをあけると大きなジュークボックス。カウンターが長く延びて止まり木が十八脚、ジョニ赤、ナポレオンブランデーなどの並ぶ洋酒ダナ。カウンターの上にシャレた赤いガラス模様照明。なかなか落着いたセンスのあるバーである。彼女がカウンターの中に入ってビールの栓を抜いて、

「おひとついかが？」ときたまさにピタリである。こんな美人女優のママさんに自からお酌をされると、そのムードだけでボーッとなりそうだ。

グググーッと飲みほすビールの味はこれまた格別。メニューをみると、グッと安い。

「おかげさまで、常連がよくきて下さるのよ。映画関係の方が三分の一にあとは私のファンとフリーの方ね。おかげで儲けさせていただいてるわ」

いくら儲かっているかは税務署の関係があるだろうから公開ははばかるとして、なにも映画の仕事をしなくったって結構、この店で食べて行けるそうだ。ホステス三人がいてこれも大サービス。美人揃いである。健全会計でほとんどツケがないというから、商売がうまいということになる。三年目を迎えて、このバーの方も上昇気流。まことに結構である。

そんならうちにドアを押して早くもお客が入ってきた。いよいよ彼女の本格的なサービスがはじまるのでこちらも一応、訪問を打ち切ることにした。なお「リズ」は中央線の東中野で、立川方面に向かって駅の改札を左口に降り、線路に添って大通りに出て左に曲って五〇メートルのところにある。本誌「成人映画」持参の方に格安サービスをしてくれるそうだ。

ゴージャス娘 ⑥

上田一平

落ち葉か…淋しいねえ…
センセって意外と少女趣味なのねえ

そうだ落ち葉をモチーフにして制作しよう
やっときまったわね…

こうやって三点に葉っパをはりつけて……
センセェこんなの平凡だわあ

それじゃうしろの穴もふさごう…
いやあねえ
フスマの穴張りやってんじゃないわよ

よしそれじゃ全身にはってやる
ペタペタ

これじゃまるでミノ虫だわ

そうだそれでいこう
キャッセンセェは残酷趣味もあったの…

ピンク映画みたまま

佐藤重臣

〝またお逢しましたねえ〟というわけではないが、深夜おそくスナック・バーやクラブなどで、スターに会うのは、職業といいながらなんといっても楽しみのひとつ。

今月は内田高子、可能かず子さんと会った。

私なども高ちゃんの前にゆくと、神妙そのもの。借りてきた猫ならぬただ姿を拝見しているだけで嬉しき極みというワケなんだなあ。

可能かず子はよかったなァ

可能かず子もよかったなあ。ロケで真黒に焼けその牝豹のような彼女の個性にマッチして凄く魅力的だった。「あたし、もっと、いい仕事がしたいの」なんておっしゃってこちらはワクワク、ドキドキ。「あした朝早いのよ」とアッサリバイバイされた。

親近相姦と女の異常な愛欲＝情炎

監督の向井寛は最近、売り出し中の一人。いつ会っても湯あがりみたいに、肌がスッペリしていること。よほどなにかいい秘術があるのかしら—と尋ねたところ、毎朝、にんにくを三個ナマでかじってくるのだそうだ。ナルホドねえ。

この向井監督の新作「情炎」は丁寧にとっていてよかった。自分がバアーテンで名演技をふるっているが香取環の役は京都のお琴のセンセイ。三十幾つかまで、ひとりでいるので引く手あまたの美人。だが、女学生時代、村の若者に輪姦され子供をはらまされて、以来すっかり男嫌らい、しかし、あの時のショクから肉体はサディスティックスなことをしないとセックスが出来ないという異常性愛の持ち主にもなっている。

「情炎」の香取環

この辺のところはなかなか香取環が綺麗で、フンワカとしたオッパイを愛撫しているような錯覚にとらわれる。やがて書生に来た十九才の坊やと恋し合うが、実はこれが実の我が子とわかり唖然。そえないふたり

は屋形船の上であの世行きというオハナシ。
最後には「にっぽん昆虫記」で左幸子が北村和夫に乳をすわせたように、母の香取が乳房を出して十九才のわが息子に吸わせるところで終っている。

「情事の報酬」の谷口朱里

ストーリーに工夫がほしい
＝情事の報酬

ピンク映画もこのくらい見世場があるといいのだが、谷口朱里の「情事の報酬」なんてのはただ、女性を痛めつけるばかり。弟を大学にやるためにコールガールをやっていた谷口がめでたく結婚したものの悪い奴らにつぎつぎおどされ、あげくの果て無理心中で解決を計るというワケだが、もうチト、筋の通ったオハナシに直せなかったものかネ。

「堕胎」の一場面

愉快なSEXコメディ＝堕胎

若松プロからは若松孝二、足立正生共同監督の「堕胎」が出来あがった。婦人科医の医者のところに、つぎからつぎやってくる客の生態を描いたもので、性感帯の局所を愛撫するだけでオルガスムスにゆく女性だとか、ワギニスムでくっついたきり離れられないで、タンカで運ばれてくる男女など、なんとも男女がアレをすると、かくかく、こんなバチが当たりますよ、といった感じで爆笑させられる。この映画の主人公、丸木戸定男先生はこういった性の営みを生殖と切り離すことが二十一世紀の課題ということで、人口胎盤の研究にのり出し成功する、ブクブク、あぶくの中で未来の人間像がだんだん成長してゆくところが何んとも愉快だ。

画が28本

連載 インタビュー 第三回

赤木圭一郎と同期の元日活女優

きく人／本誌・川島のぶ子

子供が欲しいと……ショックな発言をする香取環

川島 あなた日活の出身だったわね。何年ころいたの？

香取 死んだ赤木圭一郎と同期だから三十一年かな。

川島 じゃいまテレビロードショーに出てるでしょ？。

香取 ええ月曜日の「おっといただき」に出てるわよ。佐久間しのぶっていう芸名で…。日活には五、六年くらいいたわね。

川島 そのあとが独立プロでしょ。一番古いわけですね。

香取 一番最初が「肉体の市場」（監督小林悟）だけど、よくもまあ自分でもこれまで続いたと思うわ。

川島 ことしはもう何本出たの？ 最高いってんじゃないかしら。

香取 数えたことないわ、しかし年に二十七、八本は出ていたわね。しかしそれもよし悪しよ。

香取 しかしね、このごろの女優さんはみんなマンネリ化してきてるわね。

川島 その場限りってのが多いわね。

香取 それと独立プロで若手女優を育てることに力入れてないのね。

川島 それほどの余裕がないんですよ、一本作って勝負の世界だし……。

香取 私なんか脇役に回りたいわよ。脇を固めてくれる役者のいないこと、男優さんのいないこと、これは一番辛いわ。

川島　なにしろ女優本位のセクシー映画だから。それと本当のドラマが不在よ。
香取　そうなのよ。ホン（台本）もらって情けなくなるような内容のものもあるわね。本が気に入らないなんていったら生いきだといわれるでしょ。それでなくてもなんだかんだいわれるアタシだから。

私は情熱的な九州女ヨ

川島　じゃ一つ恋愛の方を。あなたの初恋は？
香取　そうね、やっと女優になってからだもの。私ね九州の熊本でしょ。
川島　九州女は情熱的だっていうわね。
香取　惚れたらそれこそ大変よ。真剣になっちゃうんだから。一度惚れたら自分を賭けちゃう、つまり手鍋下げてもというタイプが多いのよ。だからもし浮気して裏切ったりしたら殺しちゃうかも知れないわね。正直よ。
川島　こわいわね。
香取　だから一番幸せになる女の人も九州の人が多いし、ダラクするのも九州の人が多いわね。
川島　極端から極端ね。いまの話きいてみるとあなたが恋愛経験ないとはいえないし、よく相手と別れられたわね。
香取　変なこといわないでよイヤらしいわ。
川島　だって恋愛経験ないとはいえないでしょ。
香取　なくはないわよ。やっぱりむずかしいよ。
川島　交際した人何人くらい
香取　ジョウダンじゃないわいやだなあ。あたしね、みんなからコワがられるの、惚れられる対照にならないのよ。〝アラいやあーん〟なんてタイプの女がわりともてるんじゃない？あたしの友だちってみんな男みたいなのよ。だからあたし不幸な女よ。

女の幸せは結婚することネ

川島　じゃあね、月並みだけど理想の男性ってのは？
香取　そうね、あたしをグッと引っぱってくれる人ね。相談しても〝君のいいようにしろよ〟なんていう人はきらい

ゲスト・香取　環

1年間に脱いだ映

本誌・川島のぶ子

独立プロきっての演技派女優香取環さんは、まことにバイタリティと女優根性に徹している。つまり村田英雄の歌じゃないけれど〜やると思えばどこまでやるさーというわけだ。ポンポンはねかえってくる返事も小気味よい。演技論や恋愛論をききおよんだが、ご自分のこととなると、うまく体をかわされてしまった。目黒スタジオのスタッフルームに町内の秋祭りの笛と太鼓の音がきこえてきて、はやくも秋のムードになった。そんな中での対談となった。（川島）

しかしそろそろ考えなけあいけないわね。年だもん。あたし子供ほしくってね。お姉さんの子供もらって育てようと思ったりしたことあんのよ。そやっぱり女性は結婚よね。そして仕事と奥さん稼業は両立しないと思うわ。絶対に。

川島　やっぱりそう思う？。一つのことに熱中するのが九州女っていうからね。

香取　だからこの「成人映画」に載ったら、だれかいい人申込んでくれないかしら。あたし三万円の給料だったらそれだけで生活できるわよ。ゼイタクしない方だから。

私はセックスにヨワそうよ

川島　ところで最近のファンレターはどう？

香取　ウン、くる。くるけど返事書けなくて困ってんの。でもよくあなたのパンティや下着送ってくれなんてのがあるでしょ。ところがアタシにはそんなのないのよ。わりかし層が幅広いわね。中でも大学生が多いの。よく私の映画みてるんだ。カットのあの箇所がよかったとか、もっとこうした方がよかったなんて真面目に批評してくれる人が多いの。

川島　それはありがたいわねおくりものなんかは？

香取　洋服の生地とか香水とか送ってくれる人がいるわね

川島　稼ぐ一方じゃたまるじゃないの。住いは？

香取　日活時代からの六畳一間のアパート住いよ。給料七千円もらっていたときからだから、七年になる。高田馬場だけど、いまじゃ愛着感じちゃってほかに移れないわね。

川島　お休みのときはなにしてるの？

香取　もっぱら片づけ方、好きなのよ。模様がえするの。それに寝っころがってステレオきいているの好き。趣味はそれだけ。掃除やセンタクしてるとご気嫌。

川島　そんなことがストレス解決になってんのね。ところで実際のセックスの方はどう？

香取　それどういう質問、欲求度？そうね。人間男と女がいる限りセックスは切り離せないものね。あまり感じたことないのよ。私みたいなタイプの人はダメね。痩せている人が強いんじゃない？それより私、いまの心境は山奥のさびれた温泉に行って寝たいことだけよ。

川島　疲れているのね。一時より痩せたし、少し仕事をセーブした方がいいわよ。

香取　そうなのよ。健康じゃなかったらよい仕事も出来ないしね。私なんで顔やスタイルに自信があるわけでもないし頼れるのは自分だけだと思ってるから……。

×　×　×　×

香取環のセクシーポーズ

クローズアップ

小柄だが、よく均整のとれたプロポーションが魅力的である。以前、銀座のクラブでフロアダンサーとして踊っていたことがあるというだけあって、身のこなしもリズミカルである。三年前、向井寛監督に「密戯」で抜てきされて映画界入りした。その後、作品にも恵まれず、あまりパッとした存在ではなかった。

●リズム感を持った現代向きの女優 〈奈加公子〉

先日、「悲器」で田舎から出てきた小娘をやっていたのをみたが、この子は三枚目役をやったらおもしろい味がひき出せるパーソナリティをもっているなあーと思った。チンマリとしかカオの部分品がとても可愛い。二重の瞳、小さいがひきしまった唇は締まりのいいセクシーさを感じさせる。

たとえばドライなBGとか、中年男の浮気の虫を計算してチャッカリおいしいところをいただいたりするニクイ役をやらせてはどうだろう。

ピンク映画には喜劇的扱いが皆無にひとしく、ユーモアがないのはシナリオの貧困をものがたるものだが、彼女をみていると、なんとなくそうした現代娘の三枚目的な役柄を設定してみたくなるのである。さらに発展的なイメージーをふくらませると〝ピンク映画のB・B〟で生かせるのではあるまいか。

あの目をみていると「夢みるシャンソン人形」とはいかないまでも「夢みるジャパニーズ人形」といったところで可れんさが彼女の魅力のポイントでもある。

（井茶紋三郎）

そのSEX度の星占い

近ごろは占星術や人相、手相各種の占いや易がブームである。不思議に当たり、その人の運命を読みとる術師も多く、ある種の助言となっている。

最近飛ぶように売れているカッパ・ブックスの「西洋占星術」（門馬寛明著）は恐るべき正確度でなかなかの評判。

その星座に生まれた人の性格、職業、金銭運、恋愛、結婚運、健康運などの運勢をあきらかにしている。そこで、その「西洋占星術」のなかから性格と、セックス運を抜粋してわがピンク女優とセクシー女優の生まれ星座にあてはめてみた次第。あなたもこの一覧表を参考に（セックス度はいずれも女性の場合に限る）占ってみてはいかが。

（表はあくまでも「西洋占星術」から引用しました）

城山路子

浅丘ルリ子

浜　美枝

北御門杏子

香月マヤ

セ　ッ　ク　ス　運
性的興奮は突発的。かなり周期があり，平常は弱い。自分から積極的に体位を上にとる。前・後戯まで主導権を握り，コンスタントに休みなくクライマックスに達する。膣は奥に細く，順応性に富む。どんな男性でも受入れる可能性あり，陰毛は少なく，クリトリス，小・大陰唇ともに紅がかっている。
セックスの抑制力強く，性器は膣が上つき，直立不動で股間にかくれない。陰毛は少ないほう，大陰唇のしまりよく，クリトリスは見えない。色はすみれがかったピンク色，バルトリン腺液は多い方。
サディスティックな性生活で，相手の表情性器をながめたり，各種のテクニックを弄して，技巧的な興奮の変化をよろこぶ。病的に絶頂感を執拗に求める。性器は上つきで肛門から遠く，へその下9〜10センチにある。デルタもハッキリみえて，正常にもっとも適す。
おおらかで直情的。終始休みなく運動をくり返し，そのままオルガスムスに達する。持ち時間も5〜10分と短かく，オルガスムスのときにカニのように少し目が飛び出す。バルトリン腺液は豊富。性感も人に教えられてめざめる。色は白がかった桃色で，陰毛は茶色で量は多い方。
行為の最中には男性を喜ばすためにあらゆるテクニックを駆使し，あきさせない。性欲性感は中年時代一時衰えるが，すぐ盛り返す。性器は巾着型だが，膣が浅く15センチ以上の男性のシンボルは受けつけない。クリトリスはルビー色。
永遠に熟さない堅く青いセックスで，自からは唇を差し出さず．顔をうずめてキスを求める。身体の露出をきらい，ペッティングにも恥らう。性器は桃割れ型で下つき，膣の奥行きがやや浅い方。とくに8月24日〜9月2日生まれの人は巾着型に属し名器。

特集 ✕ セクシー女優37人

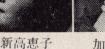
扇町京子　清水世津　志摩みはる　淡路恵子　可能かず子　奈加公子　谷口朱里

氏　名	星　座	性　格
加山恵子 新高恵子 団　令子 有馬稲子 緑　魔子	牡羊座 おひつじざ （3月21日から 4月20日生まれ）	正義感に燃え，理想をもち，弱い者を助けて，目的地に突進する。困難に遭遇しても，毅然とした態度を失わない理想の追及者で統卒力もある。
岸田今日子 香月マヤ	牡牛座 おうしざ （4月21日から 5月21日生まれ）	美と調和の精神の持主。つねに新鮮な生活と，純真なものにあこがれる。探究心と美しい品のある会話の力童心に近い愛嬌もある。
	双子座 ふたござ （5月22日から 6月21日生まれ）	臨機応変，機知縦横で，筆舌ともに多角的な知性の持ち主，人に優雅な親近感を与え，一座を明るくする。芸術家的なものと外交家的な二重の性格。
朝丘雪路 淡路恵子 浅丘ルリ子 浜　裕子	蟹座 かにざ （6月22日から 7月23日生まれ）	豊かな想像力と，はん雑な仕事に能力を発揮。順応性があり，人の知恵やアイデアを模倣する融通性がある。蓄積多能で，ヒステリックな自己主張も人一倍。
内田高子	獅子座 ししざ （7月24日から 8月23日生まれ）	明朗な性格，ときに激烈な情熱あり，親切でサービス精神旺盛。短気で気まぐれの寂しがり屋で，お天気屋。孤独な気性がひそむ。
美矢かおる 野川由美子 桂　奈美	乙女座 おとめざ （8月24日から 9月23日生まれ）	秩序を重んじ，奉仕力があり，人の心を誠実に受け正確に伝える。善悪，正邪に鋭い批判力をもっている。

■特集

■セクシー女優37人 そのSEX運の星占い

新高恵子

加賀まりこ

路加奈子

火鳥こずえ

江波杏子

セ ッ ク ス 運
男性の好きなように，濃厚な変化を許し，器物を使うこともフィンガープレーも，シックス・ナインさえもいとわない。オルガスムスも突発的。全身がはげしくケイレンし回数も多い。発達した大陰唇と飛び出したクリトリスで，色は桃色，陰毛は濃く肛門に達し，10月3日〜12日生まれに巾着が多い。
果てのないオルガスムスの連鎖反応が，全身をふるわせる。秘密のセックスを尊び小さい部屋，自動車の中などのセックスにはげしい喜びを見いだす。大部分は巾着型でとくに10月24日〜11月1日生まれは逸物，大陰唇はよく発達し，色は紅褐色。
決して裸になることを恐れない。白昼のもとでも，性器も昂奮もかくそうとしない。健康で華麗なセックスのよきパートナー。性器は奥に狭く，逆円錐型，括約筋の強さが特徴。色は暗赤色か紫色。質量ともに求める精力あり，数回の性交にも耐えられる。
おそ咲きのセックスで，相手，時，場所による順応性が大で，ムード次第で，大胆な行為におよび，自から進んで男性を刺戟し，女上位をとることもある。黒くて光沢のあるデルタに，切れ長の大陰唇で，膣の大きさは標準なみ，クリトリスは堅く，突出するのはおそいが，ひとたび固まれば愛撫によく答える。
早熟で知識上は性の達人だが，実際には淡白な性生活を営む。つつましく表現し，すぐ眠りにつく。切れ目の短い形で，豊隆している中型。陰毛は少ないが，白髪にならない。大・小陰唇，クリトリスともにルビー色で，デルタは美しい小麦色。
積極的に男性を受け入れ，感激をかくそうとしない。興奮が高まるにつれ，いじめられたいマゾヒズム的欲求が強まる。性のテクニックは少ない方。それを精神と肉体の芸術とする。デルタ地帯を縦に走る切れ長の線のはじめに，淡い紫色のクリトリスがあり，その下2センチの膣は順応性に富む。

成瀬恵子

香取　環

美矢かおる

内田高子

団　令子

松井康子

若尾文子

三田佳子

佐久間良子

緑　魔子

池内淳子

野川由美子

藤川亜樹

加山恵子

氏名	星座	性格
桝田邦子 香取環 飛鳥公子 松井康子 三田佳子 奈加公子	天秤座（てんびんざ） （9月24日から10月23日生まれ）	大声をあげず，強く怒らず，激情におぼれず，気品と美，冷静，調和のバランスをモットー。理解と公平の精神があり，虚栄心と自尊心が強く礼節を曲げない。
岡本弘子 橘桂子 路加奈子 若尾文子 浜美枝 池内淳子	蝎座（さそりざ） （10月24日から11月22日生まれ）	秘密を愛し，沈黙を選ぶ控えめな性格。洞察力，沈着慎重な精神の持ち主。強い心と体力が充実，保守的精神がある。
谷口朱里 扇町京子 清水世津	射手座（いてざ） （11月23日から12月22日生まれ）	束縛を憎む自由と，スピーディーな快楽を愛して楽天性。広く多くを要求する性格。哲学者で，目的定まればー切なりふりかまわず矢のように突進する。
加賀まりこ 岩下志麻 左京未知子	山羊座（やぎざ） （12月23日から1月20日生まれ）	忍耐と追求心，成功よりも本質的な向上を楽しむ。誠実な責任感がある。人と心から親しめず，孤独な性質の持ち主。一度求めたらトコトンまで追及する情熱を秘める。
三枝陽子 火鳥こずえ 成瀬恵子	水瓶座（みずがめざ） （1月21日から2月19日生まれ）	推理と科学的な知恵，善良を確かめる精神力の持ち主。束縛のない，自由な知恵，鋭い観察眼と流ちような弁舌があり，人を説得させる。冷たい知性と暖かい情感がある。
可能かず子 志摩みはる 城山路子 吉村実子 佐久間良子	魚座（うおざ） （2月20日から3月20日生まれ）	精神的なものに共感し，放蕩や悦楽を楽しむ。抱擁力と直感力があり，犠牲的な親切をつくす性格。ロマンチストで，光明と希望に生きる性格。

PRODUCTION NEWS

プロダクション・ニュース

大映映画「赤い天使」の若尾文子と川津祐介

若松プロで二本製作　月一本の割りで製作している若松プロでは「白い人造美人」（監督若松孝二）をクランク・アップした。地下室の一室に女性を閉じこめ人造的に美人を製造し、ベトナム戦線の慰安婦として送りこむ一味と、麻薬団をあばくために乗り込んだ男がそこに妹を発見する―といったストーリー。この作品でファッションモデルの向井まりがデビューする。さらに近く「情欲の黒水仙」（監督若松孝二）もクランク・インする予定。こんどは商業ベースに乗る作品をと意気込んでいる。

×　×　×

映倫が1月から8月までの8カ月間に成人映画に指定した本数（邦洋画とも）は百四十四本にのぼった。

×　×　×

武智鉄二監督の「幻日」がこのほど無事完成した。武智監督の前作「黒い雪」の裁判中に「幻日」を撮影、完成させたわけだが、そのタフさぶりは相当のもの。まだ配給さきは未定だが武智氏は日活で10月、「愛の喝き」（浅丘ルリ子主演）と同時公開を希望している。さてどこまでヒットするか。

×　×　×

葵映画ではかねてから企画中の「黄色い太陽」（仮題・監督千葉隆）を近くクランクインする。10月25日ころからOPで公開を予定している。

×　×　×

注目されていた若松プロの「裏切りの季節」（監督大和屋竺）とベルリン映画祭に出品し、国辱映画と話題を提供した「壁の中の秘事」（監督若松孝二）が20日から29日まで新宿、京王名画座で公開されている。前売券二百三十円（当日一般三百円、学生二百五十円）で発売中だが、当「成人映画」編集部でも前売券を扱っているので申込み歓迎。

×　×　×

大映の「赤い天使」（監督増村保造）は従軍看護婦の若尾文子と兵隊たちの間にショッキングなシーンがいくつか展開するので話題が多い。なかでも川津祐介扮する一等兵は両腕がないが、すべて健康で、セックスの排け口に苦悩するシーン（写真）若尾は川津の体を洗ってやりながらお国のためにオスペで奉仕する……というなんとも涙ぐましき場面であります。それにしても川津のつけ根から切断された両腕を作って体に附着するのに大変な苦労をした。

×　×　×

9・10月 O・Pチェーン映画ガイド

9/6——12	13——19	20——26	27——10/3
甘い吐息（東京興映）	乳房の週末（大蔵映画）	盗まれた官能（日本シネマ）	私は玩具ではない（大蔵映画）
情炎（日本シネマ）	夜の日記（関東ムービー）	情事の溪谷（大蔵映画）	炎の女（葵映画）

4——10	11——17	18——24	25——31
黒い痴情（関東ムービー）	柔肌の掟（大蔵映画）	激しいふれ合い（大蔵映画）	快楽の秘薬（大蔵映画）
禁じられた乳房（大蔵映画）	赤い情事（日本シネマ）	初夜のうづき（明光セレクト）	黄色い太陽（葵映画）

成人映画

「もだえ花」の一場面より

編集室

▼…「悲器」の水戸ロケに行った際、谷口朱里さんが、車中で「西洋占星術」を読んでいた。そのことから、女優さんたちのセックス運なるものに話題が集まった。これにヒントを得て特集『セクシー女優のSEX運星占い』が出来あがった。あなたの好きな女優さんのセックス運はいかがでしたか？（K）

▼…早いもので、本誌もこの第12号で創刊一周年目を迎えた。これを機に誌面刷新を図ってみた。その結果、ごらんのようなものができ上がったが、いかが。今後も記事内容は、特集記事、グラビアページともに、セクシー女優集といったものを重点的に企画実現していきたい。（X）

▼…ワキ毛なら内田高子、オッパイなら桂奈美、脱ぎっぷりなら新高恵子とそれぞれチャーム・ポイントをひっさげて、たくさんのセクシー女優が誕生した。そして今度、久々の大型新人、川口小枝の登場。若さと大胆さと根性が彼女にはある。ピンク映画もマンネリの折りだ。大いに期待したい。（I）

昭和41年10月1日発行　通巻第12号　毎月1回1日発行　編集兼発行人／川島のぶ子　発行所／東京都中央区銀座東6の4村木ビル5F　現代工房　電話／東京（541）3798　定価百円

新高恵子

志摩みはる

美矢かほる
北御門杏子

★「男と女」のラブシーン

♥夫を失った女と、妻を失った男が偶然知り合った。そしてお互いの孤独な心がふれ合ったとき、二人の間に愛が芽生えた。だが、愛が高まったとき、女の瞳に亡き夫の姿が割りこんできた。女はどうしても燃えることができなかった。男と女 のアヌーク・エーメ。

関東地区成人映画上映館一覧表

大阪地区成人映画上映館

難波
- 千日前オリオン座 (641) 5477
- 千日前新オリオン座 (641) 5477

西淀川区
- 野里リボン座 (471) 1082

阿倍野筋
- 阿倍野名画座 (641) 5885

福島区
- 吉本キネマ (451) 6793

布施市
- 布施映劇 (721) 4990

城東区
- 放出シネマ (961) 0664

守口市
- 守口セントラル (991) 0049

東淀川区
- 十三若草劇場 (301) 5929

天王寺区
- 鶴橋松竹 (761) 9752

都島区
- 都島会館 (951) 4651

北区
- 天六映画劇場 (351) 9138

大阪駅

名古屋地区成人映画上映館

- ○浄心ハイツ (531) 4118
- ○上飯田劇場 (991) 5714
- ○守山瓢映 0560-(79) 2082
- ○栄生グランド劇場 (551) 6379
- ○タカラ劇場 (941) 6076
- ○堀川映画劇場 (231) 0193
- ◎今池フジ (731) 4763
- ○太閤劇場 (551) 2353
- ◎テアトル希望 (541) 3044
- ○曙文化劇場 (731) 3806
- ◎日活シネマ (241) 2345
- ○鶴舞劇場 (881) 8494
- ◎名画座 (231) 3211
- ○日比野東映 (671) 0407
- ○雁道劇場 (881) 8069
- ○八熊文化劇場 (321) 8194
- ◎南映画劇場 (811) 4906
- ○新郊劇場 (811) 2730
- ○名港文化劇場 (661) 1269
- ○名南劇場 (811) 6586

月刊「成人映画」通巻第十二号　昭和41年10月1日発行　編集兼発行人　川島のぶ子　発行所／東京都中央区銀座東六の四　村木ビル五階　電話（五四一）三七九八　現代工房　定価百円